

財団法人 日本サッカー協会

<http://www.jfa.or.jp/>



子どものサッカーに関わる大人の皆さんへ

合言葉は 子どものサッカー環境をよくする仲間として

Players First!!



DREAM
夢があるから強くなる

財団法人 日本サッカー協会



今日は子ども達の日。
子ども達のために、
とびきり楽しいゲームを
用意しよう！

いろいろな協力の仕方がある。

コーチは？レフェリーは？応援する保護者は？

どのような大会にするかだって、とても大切。





子どもからの招待状

今日どんなプレーができるか楽しみです。
練習でいろいろなプレーができるようになったんだ。

大好きなサッカーをできることに感謝しています。

コーチの声が、やってきたことを思い起こさせ、良いプレーを
引き出してくれます。

レフェリーが見ていてくれるから、思い切ってプレーすることが
できます。

みんなからの応援が、勇気を与えてくれます。

対戦相手は結構強いみたい。

だけど、全力で試合に臨んで、絶対に勝つからね。
仲間と力を合わせて。

観ていてほしいんだ、今日のプレーを。
絶対に来てね!



子

ども達にとって

一番楽しいのはゲーム

サッカーは考えるスポーツ

自分で考えて

自分で行動できること

それが一番うれしい。





今日の結果ではなく、明日子どもが
どんなプレーをするかを楽しみに
指導すること

——イビチャ・オシム

さあ、ゲームをはじめよう!!

コーチの思い

子どもたちがどんなプレーをする
のが楽しみです。

今日のトライの全てがすばらしい。

できないこともたくさんある。

練習しようよ。

次の試合をもっと楽しくするために。

思う通りにプレーしてみよう。

コーチの声を聞いて、何が大切なのかを思い出してほしい。

練習でいつもやっているよね。

見ているだけでは上手にならない。

みんながプレーし、みんなが力を合わせて勝利しよう。

今日のポジションはどうだった？

楽しかった？ 難しかった？

次は、別のポジションに挑戦だ!



グッドスタンダード。

子どもはコーチを見ている。

子どもを一人の選手としてリスペクト。

子どもの良い見本になろう。

コーチのようになりたい、

と思われるように。





子ども達が自分で局面を解決できる力を つけるように有効な働きかけをするのが役目

サッカーは自分自身で考えて行動するスポーツ。

指導者の重要な仕事は、子ども達にサッカーの楽しさを伝えること。

子ども達に、自分自身で判断し解決する力を身につけさせること。

思ったことを思ったとおりに表現できるように、技術を身につけさせること。

ベンチで、子ども達のやることを限定的に指定してしまうことを「サイドコーチング」と呼びます。そうしたら、子ども達は自分で判断することをやめ、ベンチから聞こえてくる声だけを聞いてプレーするようになるでしょう。それで子ども達は楽しいでしょうか。何かを身につけることができるでしょうか。どんな状況でも解決できる力がつくでしょうか。

子ども達が「試合に勝ちたい!」と思う気持ちは非常に大事です。勝つために全力でプレーすることを促すのも必要です。しかしこれは、子ども達の気持ちです。勝つことが指導者のモチベーションになり、子どもを駒のように動かすようなことがあってはいけません。

子ども自身の発想、トライを尊重しましょう。それがサッカーの一番楽しいところです。

「トライ&エラー」の中から、学ばせること。次にはもっとうまくいくように、しっかりと身につくように、学ぶ手助けをすることが重要です。

放っておけばいいかということ、それも違います。子ども達の良いプレーを引き出し、子ども達が必要なことをしっかりと身につけることができるような有効な働

きかけが「コーチング」なのです。

準備をしてこなかったことがゲームでできなくても当たり前。それを叱っても嘆いても無駄です。準備してきたことをゲームでトライしてできたら最高です。

誰でも、自分自身でプレーしなくてはうまくなりません。子どものサッカーでは、全ての子どもが皆実際にプレーする機会を与えるようにすることが重要です。

子どものときには、将来すばらしいサッカー選手になるための準備をすることが重要です。

ポジションも役割も、何か1つに決めてしまわないで、いろいろなポジションを経験させるようにしましょう。そのことが、サッカー全体やさまざまな役割の理解につながります。気づかなかったいろいろな可能性が見えてくるかもしれません。

役割を固定して目の前の試合に何があんでも勝とうとするよりも、よほど大切な成果があるでしょう。

子ども達の一生懸命のトライを尊重しましょう。それは相手チームも同じ。皆の良いプレーを見守りましょう。審判も一生懸命です。

皆がサッカーに集中できるように、コーチが姿勢で示しましょう。コーチが審判や相手や、自分のチームの子ども達を罵倒していたら、子ども達もそれを真似します。判定の不服、思い通りにいかない状況への苛立ちも、子どものサッカーでは飲み込んでください。いつもこころにスマイルをもって。

子ども達に尊敬される指導者として、すばらしい見本になってください。



子ども達とのコミュニケーションを大切に

レフェリーの役割

子ども達がお互いに思い切りプレーを楽しめるように、プレーに集中できるように、環境をととのえたいと思っています。

子ども達を**一人の選手として尊重**しています。

楽しいゲーム、良いサッカーが繰り広げられ、子ども達がそこで成長していけることを期待しています。

必死にゴールへ向かう意志、ボールを奪い返そうとする意志。
その意志を大切にしています。

間違いは教えます。同じことを繰り返してほしくないから。

良いことには、**グリーンカード**を使ってみんなに知らせます。

一人でゲームをコントロールできることにも挑戦しています。
ゲームや選手のことを良く知れば、いろいろなことが見えてきます。
選手との良いコミュニケーションがより重要だと思っています。

皆、サッカーの大切な仲間。





お互いが尊重し合える 良いゲームづくりを目指しましょう！

お互い一生懸命にプレーする子ども達同士。ゲームがうまく進行するように、コントロールする人が審判です。子ども達が集中してプレーできるように、環境を整えてくれる大事な人です。

転んでも、ぶつかっても、失敗してしまっても、お互いが安心してプレーできるように、コントロールしてあげましょう。子ども達の良いプレーを引き出してあげましょう。

子どもだからって、上から見下したりしないでください。

子ども達を、一人ひとりの選手として、尊重しましょう。

そうしたら、子ども達も審判を一人の大切なサッカーの仲間として、尊重するでしょう。

良いゲームが繰り広げられ、子ども達がそこで成長していけたら、素晴らしいことです。

全てがうまくはいかないかもしれませんが、でも子ども達の意志を感じとってください。たくましくプレーを続けようとする気持ち、ボールを奪おうとする純粋な強い意志を感じとり、それを尊重してください。

日本サッカー協会では、たくましい選手を育てたいと考えています。いつでもプレーに集中し、意志をもってたくましくプレーを続ける。スピーディーで、フェアで、タフなゲームを目指しています。

反則を見つけて取りしめることよりも、それがいけないことで、もうしてはいけないと子ども達ができることが大切です。わかっているかどうか、確認しましよ

う。わかっていなければ教えましょう。よかったことも確認しましょう。良いことをしたら、ほめてあげましょう。皆にそれを示してあげましょう。フェアプレーには、グリーンカード。ぜひ活用してみてください。

1人審判制にも、トライしましょう。ゲームの流れを読んで、全体をコントロールできるように、チャレンジしてみましょう。選手ともベンチとも、よいコミュニケーションをとってゲームを進めていきましょう。ゲームの理解、審判の技術のとても良いトレーニングになるはずです。選手もそれに慣れ、尊重することを覚えます。お互いが尊重し合い、良いゲームになることを期待します。

選手も指導者も審判も皆サッカーの大切な仲間。皆で良いゲームをつくりあげていきます。

グリーンカードの使い方

- ピッチ内：サッカーの原点、スポーツマンシップへ
 - 自分が外に出したボールであれば、正直に自己申告する。
 - ケガをして苦しんでいるプレーヤーがいて、ゲームが続いてしまっていたら、レフェリーに伝える。
 - ※その誠実な気持ちに、外から決してプレッシャーをかけないでください！
- ピッチ外
 - 施設や用具を大切にする。
 - 困っている人を助ける。
 - 「誰かがやるからいい」ではなく、見てみぬふりをせず自分から率先して行動する。



ベストサポーターを目指そう!

保護者のサポート



今日は子ども達の日。
ベンチとは離れて、見守ろう。
元気づけるように、応援しよう。
がんばるその姿を応援しよう。
自分なりの判断、
トライを応援しよう。

相手チームも同じ。
審判も一生懸命。

皆がサッカーの**大切な仲間**。

皆の良いプレーに拍手を送ろう。

転んでもすぐ立ち上がってプレーする子ども達を応援しよう。
審判はちゃんと近くで見て、ゲームがスムーズに進むようにコントロールしています。

コーチは皆を楽しませたい。皆をうまくしたい。
サッカーからは、本当にいろいろなことが学べるのだから。
それを信頼しよう。

子ども達が**自分で準備**。自分で**行動**。自分で**片付け**。

どんどん大人になっていく子ども達を、頼もしく見守ろう。
成長していく機会を決して奪ったりしないように。

後で、子ども達とたくさん**話をしよう**。子ども達の話**を聞こう**。

楽しかった、エキサイティングだったゲームの話**を聞こう**。
楽しそうだったら、ご自分でも身体を動かしてみたいはかがですか!

Note



解説

めざせ! ベストサポーター

子ども達の成長を楽しみに、見守り、応援し、サポートしましょう。

子どものサッカーは、保護者の皆さんの日々の温かい見守り、協力がなくては成り立ちません。夢中になってサッカーに取り組む子ども達を見て、できるかぎりのことをしたいと思うその気持ちは大きなエネルギーを持っています。子どもが小さいほど、親の影響は大きいものです。

保護者の皆さんのポジティブな関わりが、子ども達の大きな助けになります。ぜひ、子ども達のために、最高のサポーターを目指してください。

今日は子ども達の日。日ごろの成果を試そうとワクワクしている子ども達を、今日はベンチから離れて反対のサイドから応援しましょう。うまくいってもいなくても、精一杯のトライ、夢中になっているその姿を、励ましてください。いつの間にかたくましくなった子ども達にびっくりするかもしれません。

失敗しても、転んでしまっても、ボールを持っているだけで失敗しないか心配でも、子どもが何をしようとしているか、見守ってください。大丈夫ですよ、悲鳴をあげないで。子ども達は落ち着いてプレーしようとしています。

ぶつかってしまっても、わざとじゃありません。サッカーには「敵」はいません。サッカーを楽しむ「相手」であり「仲間」です。なかなか手ごわい相手こそ、お互いを高めあうすばらしい仲間です。

審判は、公平に、子ども達のすぐ近くでプレーを見守っています。ゲームがうまく運ぶようにコントロールしようとしています。審判は審判に任せておいて!

コーチは子ども達がサッカーを楽しめ

るように、皆がうまくなれるように、日々、そしてゲームの日も、がんばっています。皆が良い経験をして、多くのことを学べるようにしようとしています。それを信頼しましょう。コーチはコーチに任せておいて!

子ども達は日々成長しています。準備や片付けだって自分達でできます。

サッカーは、ピッチに出たら、自分自身で判断して行動しなくてはなりません。自立が大切なスポーツです。子ども達の自立を日々促し、応援してください。子ども達がたくましく自分で解決しようとトライする機会を、決して奪ったりしないでください。

日本サッカー協会では、保護者の皆さんへ「めざせ! ベストサポーター」という冊子を作成しています。ぜひお読みになり、子ども達の最高のサポーターとなってください。日本サッカー協会にお問い合わせください。HPからダウンロードすることもできます。



お父さんもお母さんも、おじいちゃんもおばあちゃんも、もしよろしければぜひサッカーにトライしてみてください。ファミリーフットサル、レディースフェスティバル等、さまざまな機会を提供しています。「朝ごはんが作戦会議!」楽しみがまた広がるかもしれません。

やってみよう!

応援についてきた 小さな子ども達も!



お兄ちゃん、お姉ちゃん達のゲームを必死に応援。

でももう我慢しきれず、近くのスペースで、見よう見まねでボールを蹴る。
ドリブルをする。フェイントだってやってみる。

ぼくたちも早く、あんなふうにゲームができるようになりたい。

こっちへおいで。

これ、できるかな? **やってごらんよ。**

ボールを蹴るばかりではなく、手を使ってこんなこともできるかな?

そこまでできたら、

こんどは**ファンタジスタ**に**チャレンジ**だ。

得意な足ばかりではだめ。

反対の足でも同じようにできるように、自分でたくさん練習してごらん。

次はこの技に挑戦だ。



日本全国のみんがチャレンジしているよ。

HPを見てごらん。

君の名前も、載るんだよ。

Note



解説

全国の子ども達が挑戦しています。 『JFAチャレンジゲーム』

日本サッカー協会では、子ども達が個人で動きづくりやボール扱いを練習するためのツールとして、JFAチャレンジゲームを作成、展開しています。サッカーはチームで行うスポーツですが、そのベースとして個人が身体とボールを自由自在に扱うことができるようになっておくことが重要です。

特に、動きづくりは、子どものときにこそ、身につけやすい能力です。子どものときにさまざまに身体を動かす経験をしておくことが、後から大きな財産になります。

それらを年代に応じて、段階的にわかりやすく、また多様な種目を提示したのでこのチャレンジゲームです。

初級にあたる、5歳から8歳程度の子どもを対象にしたものが『めざせクラッキ! ボールはともだち』です。ステージ1からステージ6までの6段階。内容は、サッカーに特化せず、全身のコーディネーションを養うものです。親や大人の方と一緒に、家庭で簡単に取り組めるものとなりました。大人

の方が、スキルを確認し、クリアしたらシールを貼って進めていくやりかたです。ステージ6までクリアしたら修了証を渡します。

次の段階が、『めざせファンタジスタ! ボールを意のままに』です。

これは、8歳程度から大人までを対象

にしたものです。内容としては、よりサッカーの専門的なスキルが入ってきますが、バランスを重視しており、ボールを足で扱うだけでなく、手で扱うもの、全身の動きづくり等を入れています。ステージ7から20までの14段階。まず練習をして、検定を受け、規程のステージをクリアしたら合格バッジがもらえます。

『めざせクラッキ!』も『めざせファンタジスタ!』も左右を偏りなく使えるようになることを目指していることも特徴の一つです。子どものうちから意識して両方を偏りなく使う練習をすることで、身体とボールを自由自在に扱えるようになることを目指します。サッカーのゲームで活躍するための、ベースの準備です。

ゲームの勝ち負け以外にも、一つ一つ自分で反復して練習しできるようになっていく励みができることも狙いの一つです。

クラッキ、ファンタジスタとも、修了、合格したら、日本サッカー協会のHPに名前を掲載します。全国の子ども達がチャレンジしています。是非チャレンジしてみてください。

入手方法、実施方法等の詳細は、『JFAチャレンジゲームHP』<http://www.jfa-challengegame.com/>を参照してください。

大会やイベント等でも、積極的にコーナーを設けて実施していただけると幸いです。



どんな賞なの？

フェアプレーって？

フェアプレー賞はどんな賞だろう？

イエローカードやレッドカードが一番少ないチーム？

いいえ、ちがいます。

スピーディーでフェアでタフなゲームを目指す。

プレーに**集中**し、

常にプレーを続ける意志を持ち

たくましくプレーする。

最後まで全力でプレーする。

相手に**敬意**をはらう。

怪我をした相手がいたら助ける。

レフェリーを尊重する。

ホイッスルがなるまで自分で勝手にプレーをやめない。

判定にしたがい、すぐに次のプレーに移る。



コーチも相手やレフェリーに敬意をはらう。

選手を落ち着かせ、励まし、プレーに集中させる。

応援も、相手やレフェリーに敬意をはらい、

相手をののしるようなことを言わない。

自分のチームも相手のチームも良いプレーに拍手。

レフェリーに**感謝**。

こうして皆でポジティブな気持ちの**良いゲームをつくる**。

こういうチームが**フェアプレー賞**！





ポジティブな指標で、皆で気持ちのよい 望ましいゲームをめざしましょう。

大会では、優勝等順位の他に、フェアプレー賞という賞があります。これはどんな賞でしょう？イエローカード（警告）とレッドカード（退場）が一番少なかったチーム？

世界では、こういう考え方をしていません。減点が一番少なかったチーム、ではなく、ポジティブな面、また、サッカーのゲームを広くとらえ、サッカーのゲームをつくるさまざまな要素を合わせて評価する考えかたです。ポジティブに、プレーに集中し、異議を唱えたり態度で示したりせず、最後まで全力をつくし、意志を持ってゴールを目指す、ボールを奪う。スピーディーで、観ている気持ちの良いゲームを目指すプレーを評価します。また、選手の姿勢、対戦相手に対する敬意、審判に対する敬意、そして、ベンチのスタッフや控えの選手の姿勢。さらに、ゲームの雰囲気をつくる大きな要素である応援のファンも対象です。ポジティブにチームを励まし、対戦相手にも審判にも敬意を表する。そんな素敵なファンの応援が、ポジティブなゲームを演出するのです。

子どものゲームでも同様。子ども達がプレーに集中し、懸命にボールを追いゴールを目指す。ベンチがそれを励ます。多くの子ども達がさまざまなポジションでゲームを経験する。子ども達は審判の判定にしたがい、すぐに次のプレーに移る。笛もないのに、自分で勝手にプレーをやめない。ベンチが判定に文句を言っていたら、子ども達はとまどうだけ。子

ども達の自由な判断を引き出し認める、子ども達がゲームを通して何かをしっかりと身につけるようなベンチワークが望まれます。

子ども達の自立を促すように、子どもの領域に立ち入らない。準備や片付けはあえて見守る。ベストサポーターとしてポジティブに子ども達を励ます応援。

そうすればゲームはポジティブになっていくでしょう。

自分のチームでも相手のチームでも良いプレーに拍手。

ゲームが終わったら、お互いに握手。審判にも握手。

そこまで含めて皆がゲームをつくります。

そのことを、ゲームに関わるすべての人にわかっていたいただきたいと願っています。

気持ちの良いポジティブなゲームをしたチームに、フェアプレー賞を！



とっても大切!

大会運営のフィロソフィー

どんな大会を運営するかも、子ども達のサッカーに大きな影響がある。

皆がたくさんボールにさわれるようにしよう。

シュートの場面がたくさん出るようにしよう。

ピッチ上の全員がいつもプレーに関われるようにしよう。

参加した**全員**が**たくさんプレー**できるようにしよう。

皆がいろいろなポジションを経験できるようにしよう。

コーチはコーチ、レフェリーはレフェリー、応援は応援。

プレーするのはもちろん子ども達。

それぞれが自分の本来の役割に徹し、相手の仕事を尊重できるように、運営の面から少し力を貸そう。

小さな地区の大会等では、例外もあるかもしれない。

ガイドラインの趣旨に沿って、柔軟に対応。

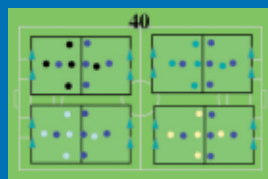
そしてもちろん、全ては子ども達のため。

Players First !!

子どものサッカーのことを考えるときは、

いつも子ども達を第一に考える、というとても大切な言葉。

同じ大きさのピッチの中でも、工夫をすれば同時に大勢の子ども達が楽しむことができます。どれもサッカー。子ども達の成長や目的に応じて、最高に楽しいゲームを用意しましょう!





子ども達にとって最高の大会を、準備しましょう。

大会ガイドラインより

サッカーは11人で大きなピッチでやるもの、と思っていませんか。

子どもの場合、大人と同じ大きなピッチで11対11をやっても、なかなかボールはきません。なかなかボールに触れない子どもがたくさん出ます。がんばってもなかなかプレーに関われません。なかなかシュートまでいけません。そこまでパスは届かない。届く範囲でサッカーをしてしまうしかありません。サッカーのゲームの楽しさを、うまく経験することができません。たくさん経験ができなければ、ゲームをやってもうまくなる機会もあまりありません。

子どもには子どもに合った大きさのピッチ。
子どもに合った人数。

小さなピッチで少ない人数でやるのもサッカー。

ほら、またボールが来た。すぐにゴール前！ボールを奪ったら、すぐに反対のゴールへ迫る。

皆が常にプレーに関わり、たくさんボールにさわれます。

子ども達が楽しそうですね。

ゲームでシュートをする経験がたくさんないと、シュートはうまく決められるようになりません。またそれをしっかりと防

げるようにはなりません。
未来の日本代表選手になっ

て、大試合でゴールを決める！
その夢に向けて、子ども達にたくさんシュートの場面を
経験させたいものです。

ベンチに座って観ているだけではつまらないし、うまくなりません。

参加した全員が試合に出られるように。大人が皆で協力すればできるはず。大会のルールで約束事にすることもできますね。子どもの試合では、交代がどんどん簡単にできるようにしましょう。

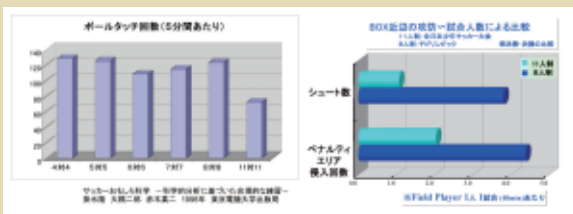
いろいろなポジションを経験することも大切なことです。ゴールキーパーも同様。皆がフィールドもゴールキーパーもできると、それは将来に向けて大切な経験になります。そのためには、必ずゴールキーパーのユニフォームを着ろと言われても難しいな。ピブスでははっきりわかるようにしてみたら良いのではないですか。ただし、怪我をしないように、安全には十分配慮して。

ルールでコントロールすることが全てではないけれど、望ましい大会になるように、運営の面からも大いに働きかけることができるのです。

大人が柔軟に対応することで、子ども達の世界は大きく広がっていくのです。

迷ったときは、Players First！

子ども達にとって何か一番良いのか。
子ども達にとって最高の大会を、準備しましょう。



子ども達のために、世界中で

海外の取り組み

子ども達のサッカー環境をすばらしいものにしようと、海外でもさまざまな取り組みがなされています。

アメリカ AYSO

American Youth Soccer Organization

キッズゾーン

アメリカのユースサッカー関連の組織。子どものサッカーに関わるさまざまな指針等を提示しています。キッズゾーンは、サイドライン上のネガティブな行動を排除するためのプログラム。ポスター、バッジ、親の誓約書等を用意しています。

ここはキッズゾーン。

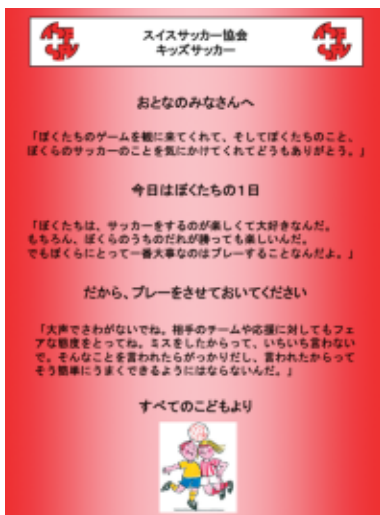
以下の約束が守れるなら歓迎。

守れないのならば
大人立ち入り禁止

- キッズがNo.1
- 勝つことではなく楽しみがすべて
- ファンは応援するのみ。コーチはコーチに任せる
- 怒りにまかせてどならない
- ボランティアのレフェリーを尊重する
- ののしらない
- 禁煙
- 帰りにゴミを残さない
- 子どもに良い見本となる



「注意！あなたはキッズゾーンに入ろうとしています」
アメリカ



「今日はぼくたちの1日」スイス

スイスサッカー協会

スイスサッカー協会でもさまざまな取り組みが積極的に行われています。

左のページ右下に示しているのは、キッズサッカー用のポスター「今日はぼくたちの1日」。

このページは、子ども向けサッカー絵本

の前文、パパへの手紙です。この絵本は、子どものサッカー生活を描いた絵本ですが、合わせて、大人向けに、それぞれの場面での考え方、望ましい関わり方に関する解説もついているものです。

Fユース(U-9)の子どもからパパへの手紙 スイスFA 子ども向け絵本の前書き

パパ、パパがこないだピッチの外に置いてあったゴールによじ登ってレフェリーに文句を言ったでしょ。あの時、僕はすごく頭にきて泣きそうになったんだ。あんな怒り方、今まで見たことなかったよ。たぶん、レフェリーが間違っただとは思う。でも、僕がたとえパパの言うように「レフェリーのせいで」試合に負けたんだとしても、そんなことはどうでもよくて、僕はとっても楽しかったんだ。

わかってほしいんだ、パパ。僕はプレーしたい、それだけなんだよ。僕は楽しみたいんだ。だから、僕がプレーをしているときには、「パスしろ!」とか「シュートだ!」とか、叫び続けるのはやめて。パパの言うことはあっているのかもしれないけど、僕が緊張してしまうんだ。

パパ、もう一つあるんだ。試合中にコーチが僕のことを交代させても、怒らないで。僕は、ベンチにすわってみんながプレーしているのを見るのだって楽しいんだよ。僕らは大勢いるし、みんながプレーしなきゃだめでしょ。それから、僕にサッカーシューズをきれいにするやりかたを教えてください。僕のなんだからパパがやってくれなくていいんだ。僕が自分でできるようにならなきゃいけないんだよ。それからスポーツバッグは僕が自分で持ちたいんだ。バッグにはチームの名前が書いてあるから、僕がサッカー選手だってまわりのみんながわかるだろ?僕、それが好きなんだ。

パパ、お願い。試合の後にママに「今日は勝った」とか「負けた」とかって話すのはやめて。ママには僕がとっても楽しんでたって伝えてほしいんだ。それから、僕がすごいシュートを決めたから勝った、って言うのもやめてね。だって、そうじゃないんだもの。僕がシュートを決めたのは、仲間が僕に良いパスをくれたからなんだよ。勝ったのは、僕らのチームのゴールキーパーが必死に相手のシュートを防いでくれて、チームの仲間が全員でせいっぱいがんばったからなんだ。(コーチが僕らにそう教えてくれるんだ)

怒らないでね、パパ。こんなことを書いてしまったけど。僕、パパが大好きなんだ。練習に遅れてしまうので、これでおしまいにするね。練習に遅刻すると、今度の試合にはじめから出してもらえないんだよ。

じゃあね。



大会が選手を育てる 子ども達のために力を合わせて！ より充実した育成年代の大会に

ユース年代において、試合、大会は、育成に大きな役割を果たします。選手を育てるのは、トレーニングと試合です。より良い育成のためには、その両方の環境が育成に理想的であることが大切です。そういった意味で、大会が選手を育てると言っても過言ではありません。大会のあり方は、育成に大きな影響を及ぼします。

育成年代で、日常的に良いサッカーができる環境があり、その中でさまざまなリスクにもトライしながら成長していけるよう、育成年代のサッカー環境に関わる大人、すなわち指導者、審判、大会運営者、親・サポーター、が力を合わせて改善していく必要があります。下の年代であればあるほど、多くの方が、指導者であり、審判であり、大会運営者でもある場合が多いのではないのでしょうか。

JFAでは、特に4種・キッズ年代の大会に関し、さまざまなキャンペーンを実施しています。各都道府県、各地区の大会でも、ぜひいろいろなアイデアを出し、できることからどんどん広げていただきたいと思います。以下、いくつかの例を挙げてみます。ご参考にいただき、トライしていただきたいと思います。全国でのアクションで、育成年代の競技環境に影響を与えていきましょう！

● 運営・企画関連

① 監督会議でガイドラインの趣旨の説明・徹底

大会ガイドラインの趣旨を、参加する各チームの監督が共有して大会に臨んでいただきたいと思います。

② ガイドラインの趣旨に沿った大会運営

大会ガイドラインの趣旨に沿って、大会形式を検討していただきたいと思います。地区大会レベル等では、趣旨に沿うためにローカルルールの適用が必要になる場合が出てくると思います。全国大会の規定がそうであるから、ということではなく、47FAユースダイレクターとの協議で、必要なローカルルールを適用し、ガイドラインの趣旨に沿った大会をつくっていただきたいと思います。

③ 保護者、応援団の観戦位置制限

ベンチの真後ろに陣取り、子ども達のあらゆる世話を焼き、また大声で指示を出したり相手や審判に文句を言ったりする姿が見受けられます。

子ども達の自立のため、準備や片付けは子ども達自身が行うようにしましょう。また、指導者や子ども達、審判に影響を与えるような声や態度を示さず、反対のサイドで応援に徹するようにしましょう。

●配布・掲示物関連

①子どもの大会に関わる大人向けハンドブック

関わる大人（指導者、審判、大会運営、保護者・サポーター）という切り口での新しいハンドブック作成しました。

②保護者向けハンドブック『めざせベストサポーター』ダイジェスト版ちらし

大会やイベントの情報を伝えるちらしの裏面として活用してください。

③ポスター、ステッカー等

2008年度全日本少年サッカー大会では、以下のロゴを使用しています。

①ADカードに『スマイルサッカー』マーク

真剣なまなざし、懸命なプレー。選手もコーチも応援も、皆がんばっています。その心にはいつもスマイルがあります。

全日本少年サッカー大会では、ADカードにこのロゴを掲載しています。

②子どもエリアのマーク

今日は子ども達の日。主役は子ども達。

子ども達を尊重し、大人は見守りましょう。

子ども達の自由な判断に基づく行動、自立した行動を優先すべきエリアとして表示するマークです。

その他、ポスター、ステッカー等、さまざまなツールを検討・準備中です。



④ポジティブな指標でのフェアプレー賞のトライ

イエローカード、レッドカードの減点が最も少ないチームがフェアプレー賞、というのが一般的かもしれませんが。そうではなく、ポジティブなプレー、フェアでタフなプレーをしたチーム、子ども達をポジティブに励まし大勢の子ども達に出場機会やさまざまなポジションを経験する機会を与えるベンチワーク、相手も含めて子ども達を応援しポジティブな雰囲気を生み出すサポーターも含めて、ポジティブな指標でフェアプレー賞を選ぶ考え方にトライしていきたいと思います。

⑤大会期間中の保護者向け研修会

ベストサポーター研修会、D級、キッズリーダー養成講習会等

⑥大会期間中の子ども（応援の弟・妹）向け企画

JFAチャレンジゲーム めざせクラッキ、めざせファンタジスタ オープンプレ検定等

⑦審判と技術のディスカッション

より良い育成の観点から、大会での試合に関して審判関係者と技術関係者のディスカッション

⑧その他

その他、いろいろ企画してみてください。

ゲームが終わったら
相手チームと握手。レフェリーとも握手。
コーチ同士も握手。応援同士だって握手。



勝っても、負けても ありがとう。

ゲームが終われば結果は出ます。
お互いに勝つために全力を尽くした結果です。
がっちり握手。これは次に向けての決意表明です。

フェアプレーに ありがとう。

コーチも、レフェリーも、応援も、
みんながフェアだったから、
激しい戦いだったけれどもとても楽しかったです。

また今度、 ゲームしようね。



今

日はとっても楽しかった!

みなさん、どうもありがとう!

いつもいつも、どうもありがとう!

もっとうまくなれるように、がんばります。

ぼくらはサッカーが大好きだ!!

次は負けないぞ。





合言葉は

**Players
First!!**

INFORMATION

こどものサッカーに関するJFAの講習会、刊行物のご案内

簡単に勉強ができる講習会

以下は、簡単に受講できる、一番初級の講習会です。

- 公認D級コーチ：U-12の指導。初心者コーチ向けの簡易なコースです。
- 公認キッズリーダー：キッズ(U-6/8/10)年代の子ども達に日常に関わる大人の人達を対象としたリーダーを養成するコースです。
- 4級審判員：審判の一番初級のコースです。ルールや審判の仕方を学びます。
各チームには、4級審判員が必ず2名以上必要です。

子どものサッカー指導について、もっと勉強がしたかったら

- 公認C級コーチ：U-12の指導について、より詳しく学ぶコースです。
- 公認B級コーチ：ユース年代(U-18)の指導全般について、指導者の基礎的事項の全般を学ぶコースです。
- 公認A級コーチU-12：U-12の指導を専門的に学ぶコースです。

指導指針／ガイドライン

以下は、JFAが発刊している、年代別の指導指針です。

どなたでも購入することができます。

- キッズU-6指導ガイドライン
- キッズU-8指導ガイドライン
- キッズU-10指導ガイドライン
- U-12指導指針
- U-14指導指針
- U-16指導指針



INFO ⇒ 日本サッカー協会ホームページ <http://www.jfa.or.jp/>

合言葉は

Players First!!

発行 財団法人 日本サッカー協会 技術委員会
〒113-8311 東京都文京区サッカー通り JFAハウス
TEL. 03-3830-1810 FAX. 03-3830-1814
<http://www.jfa.or.jp/>

編集 財団法人 日本サッカー協会 技術委員会テクニカルハウス

制作協力 有限会社 ピーチ アンド ダムズン

印刷 アサヒビジネス株式会社

- 本紙掲載のレポート、写真、図表などの無断転載を禁じます。
- 写真提供 Jリーグフォト(株)
- イラスト 浅羽 社一郎
- 発行日 2008年6月30日

JFA 2005年宣言

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。
サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。
常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAの約束2015

2015年には、世界でトップ10の組織となり、ふたつの目標を達成する。

1. サッカーを愛する仲間＝サッカーファミリーが500万人になる。
2. 日本代表チームは、世界でトップ10のチームとなる。

JFAの約束2050

2050年までに、すべての人々と喜びを分かちあうために、ふたつの目標を達成する。

1. サッカーを愛する仲間＝サッカーファミリーが1000万人になる。
2. FIFAワールドカップを日本で開催し、日本代表チームはその大会で優勝チームとなる。

DREAM

夢があるから強くなる



DREAM
夢があるから強くなる